

新型コロナウイルスワクチン対応 要望書

現在医療従事者へ先行的にワクチン接種がおこなわれている。一刻も早い感染防止策として期待が高まるなか、副反応による市民の不安も同様に増えていくのではないかと考える。

そこで、今後ワクチン接種が進展するにあたり、医師会と協力して希望者には速やかに接種が出来るよう努力するとともに、慎重かつ十分に情報を得て、市民へ適宜正確な情報を伝えていくよう求めるものであります。

記

- 現在進行中である医療従事者への接種で副反応にかかわる情報などは専門家部会において常に更新されているところであり、保健所や医師会等と協力体制を整え情報を共有すること。
- 接種後のアナフィラキシー症状で、現在のところ意識障害はないとされるが、発疹、腹痛や、呼吸困難などはみられた。現在はすべて回復や、症状が改善されているようだが、大半が女性であった。そのことから接種後の環境や滞在時間を配慮し、同時に密にならないよう注意すること。
- 集団接種の会場は病院などの医療機関ではない場所でも検討が進められているが、接種後に何らかの症状が発生して緊急を要することも考えられるので、備えを万全にすること。
- ワクチン接種に関して周囲の支援が必要である。例えば移動困難者の接種会場への送迎など、協力体制の強化が求められることが予想されることから、予めの周囲へ支援の呼びかけなどの検討をすること。
- 接種時期がゴールデンウィークに当たる場合の対応や、PCR 検査含め、広報などで告知において万全の対応をすること。
- ワクチン接種に関して、保健所や自治体の職員を装い、「高齢者を対象にPCR 検査とワクチン接種で予約金が必要だ。」などとする詐欺の報告が上がっており、引き続きの注意喚起を求める。